

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2011年7月14日発行

＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その2. チョウ＞

7/6、ひたち野うしく小3年生の水辺公園観察の続き。今回は、チョウの仲間です。

1. キアゲハ (アゲハチョウ科)



黄色い大きなチョウ、キアゲハです。ひらひらと優雅に飛んでいましたね。写真は下見(6/29)の時のもので、下草の刈り残りのセリ科草本に卵を産みつけていました(左)。



2. キタキチョウ (シロチョウ科)



この辺でモンシロチョウくらいの大きさの黄色いチョウというと、だいたいこのキタキチョウかモンキチョウでしょう。幼虫はハギなどマメ科植物を食べるので、下見の時には産卵しているものも見られました。以前はキチョウと呼ばれていましたが最近のDNA分析で2種が混ざっていることが分かり、本州～南西諸島に生息するものを「キタキチョウ」、南西諸島のものを「キチョウ」と呼ぶようになりました。DNAに

よる分類は植物など他の生物でも採用されるようになり、分類学の世界は大きく変わってきました。

3. ルリシジミ (シジミチョウ科)



林のまわりを飛びまわる白っぽいシジミチョウですが、翅の表面は水色～青紫色で美しいです。春から秋の終わりまで長く活動するので、見かけることも多いでしょう。幼虫はマメ科、ミズキ科、バラ科など、いろいろな植物の花やつぼみを食べるそうです。

シジミチョウの仲間は小さくて、みな同じように見えるかもしれませんが、よく見ると翅の表の色も裏の模様も違いますね？幼虫の食

べ物も違うから、何に産卵しているかも名前を調べる時の参考になります。

4. ツバメシジミ (シジミチョウ科)



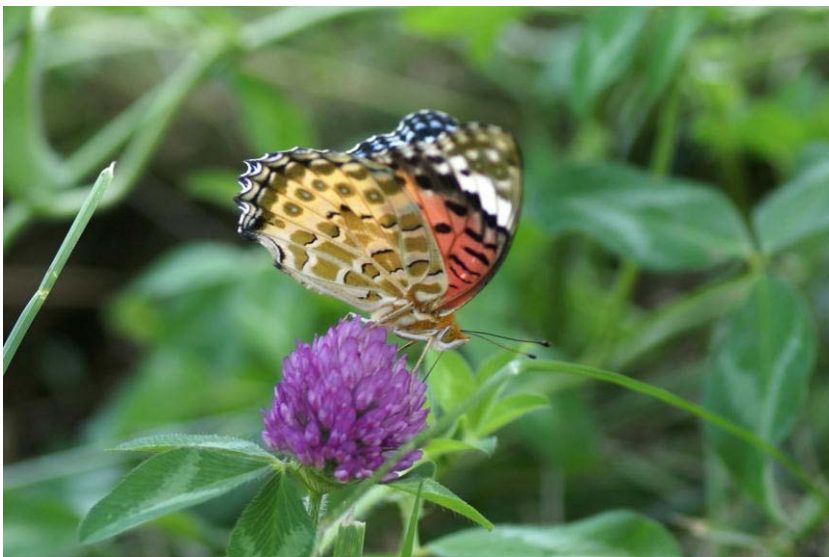
開けた明るい原っぱでよく見られる白っぽいシジミチョウで、翅の裏面のオレンジ色の模様と「ツバメ」の名の由来となった尾のような突起が特徴的で美しい。オスの翅の表は青く光り輝き鮮やかですが、メスでは灰色で目立ちません。地面近くを飛びながら、花の蜜を吸うようすがよく観察されます。幼虫は、シロツメクサなどマメ科植物の花やつぼみ、芽を食べるそうです。

5. ベニシジミ (シジミチョウ科)



その名の通り赤というかオレンジ色のきれいなシジミチョウで、こちらも春から秋までよく見かけます。春に現れるものは赤っぽく、夏のもの黒い部分が多くなり黒っぽい感じになります。そして秋には両方のタイプが見られるようです。開けた明るい原っぱや畑のまわりなどで多く見られ、地面近くを飛びながら花の蜜を吸います。ふだんは左の写真のようにストローを丸めています。蜜を吸うときは右の写真のようにストローを伸ばして吸います。幼虫はスイバ、ギンギシなどを食べます。

6. ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)



ひょう柄模様をしたタテハチョウ科のチョウで、もともとは南方系のチョウですが、幼虫がパンジーなどスマレの仲間を食べることから、それらの苗にまぎれて広がったと考えられています。さらに、地球の温暖化の傾向も分布を広げるはたらきをしているようです。3組さんが帰るときに、私たちを見送るように？写真のメスが現れました。 【理科支援員 宮内】